

人工透析ついに導入

人口減少の歯止めにも期待が



人工透析機が設置される歯科診療所

島民が以前から切望し、櫻田村政の重要公約の一つでもあった人工透析の導入が実現する運びとなった。この実現により、これまで帰島を諦めていた人や島で暮らすその家族の苦しみを取り除かれるほか、島の人口減少に歯止めがかかることも期待することができる。

人工透析導入は、1月17日第1回臨時村議会で可決された。人工透析がないために帰島出来なかった在京者

や帰島後に加療上京を余儀なくされた家族を含めた人々が、どれほど切望し待ち望んだか計り知れない。

入口横の歯科診療所（歯科は近隣に移転）、予算は、約2千450万円、透析機器4台設置予定（1台は予備）、導入時は患者3名（見込み）など

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

〇ご寄付者名

増田匠様・奈穂子様、M様、吉野文雄様、遠藤芙美子様、佐藤就之様、佐藤宗ノ子様、板倉美紀子様、島市売上（12月13日～2月8日現在）

ご協力ありがとうございます。

〇ご寄付のお願い

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

【三宅島ふるさとネット事務局】

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿 25-6

電話：03(3963)5678

FAX：03(3963)5697

担当：加藤

人材センター創立 20 周年式典 佐藤会長にも感謝状贈呈



佐藤会長と人材センター窪寺会長（右）

（公）三宅村シルバー人材センターは、1月26日に「創立20周年記念式典」を坪田体育館で開催。窪寺昇会長式辞、名誉会長の櫻田村長（代読）挨拶の後感謝状贈呈と表彰状授与が行われた。

展向上に寄与された功績は誠に大であります。よって創立20周年記念式典にあたりその功績を讃え深く感謝の意を表します」とのお言葉を頂いた。当ネットは、「三宅島新報」の三宅島全戸配布を2006年1月から7年間隔月で、人材センターに依頼してきた。式典は受賞者代表、来賓挨拶等があり、祝賀懇親会が盛大に行われた。

入口横の歯科診療所（歯科は近隣に移転）、予算は、約2千450万円、透析機器4台設置予定（1台は予備）、導入時は患者3名（見込み）など

〇三宅村人工透析医療導入推進会議委員名簿
大林航（三宅村中央診療所長）、高松文子（中央診療所看護師長）、浅沼

徳広（村議会）、長谷川崇（村議会）、仁多見謙一郎（島しょ保健所三宅島出張所副所長）、山上初夫（被保険者代表）、平松一成（患者家族会副会長）、目良純一郎（新線池袋クリニック院長）、池山秀利（副村長）、千葉弘幸（中央診療所事務長）※順不動・敬称略

「齋藤塾」塾長 齋藤實氏

勉強会や相談デスクで支援



「齋藤塾」塾長の齋藤氏による危機管理の勉強会



山火事で三池浜は芽生えた草木も焼け噴火直後に（2月6日）

元三宅支庁総務課長の齋藤實氏は、定年退職後「齋藤塾」を立ち上げ、危機管理に関する勉強会や見学会を開催している。今号では、相談デスクの設置や地元相談会の実施、交流会や後援会の開催、さらには植林活動の推進など齋藤氏の三宅に関する取り組みを紹介していただいた。

私は、2003年4月から06年3月までの3年間、東京都三宅支庁総務課長として在職し、その後半の1年3カ月余、神着にある支庁の職員住宅で単身赴任しました。

三宅島では、2000年6月の三宅島雄山の噴火災害により9月には全島民が島外避難を余儀なくされ、4年5カ月の避難生活後の05年2月1日から帰島できるようになりました。この帰島に係る三宅島の現地対策本部業務等を担当し、今でも多くの島民の皆さんと交流させていただいております。

11年3月、42年間勤務した東京都庁を定年退職後は、危機管理勉強会「齋藤塾」の塾長として、概ね月1回、危機管理に関する勉強会や見学会を開催、防災・危機管理等に関する講演、訓練指導等を行っています。また、弁護士、技術士などの専門士業団体が構成する「災害復興まちづくり支援機構」の事務局員として活動しています。

様々な分野の取り組みを

今回は、支援機構として実施している三宅島復興支援活動を紹介させていただきます。

(1)「三宅島復興支援」な
んでも相談デスク」の開
設（11年8月）
村民の皆様及び関係者の皆様の三宅島復興に関する様々な相談事項につきまして、弁護士などの専門家が無料で相談に応

じています。

支援機構のホームページへアクセスしていただき、メールで相談内容を送信していただければ、原則、10日以内に回答させていただきます。

(http://www.j-dsco.jp/nityake_sodan.html)
(2)三宅島での現地相談会
(11年8月20日、21日)
支援機構関係5名とNPO司法過疎サポート

ネットワーク（小海弁護士など）とともに、三宅村役場で島民の無料相談会を実施。商工会や観光協会との意見交換会を実施しました。

(3)「ふるさと三宅村民」の周知
商工会が実施している「ふるさと三宅村民」を周知し、私を含め支援機構関係者が特別村民になりました。

(4)講演会の開催（11年11月30日）
支援機構総会時の特別講演として、前三宅村長の平野祐康氏をお招きし、「三宅島は今、噴火・全島避難・帰島そして復興」と題して、ご講演

いただきました。

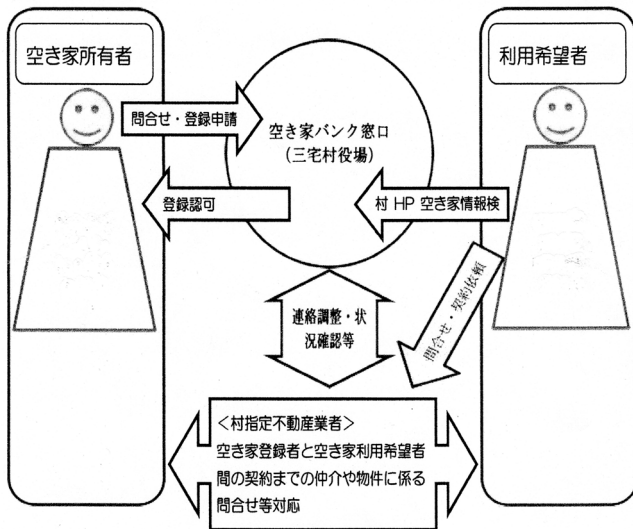
(5)交流会の開催（12年5月7日）
三宅島の復興支援を考える報告・交流会を開催し、ゲストに三宅島ふるさと再生ネットワークの佐藤会長、大妻女子大学の千川教授、NPO法人園芸アグリセンターの宗村理事長や園芸高校の生徒らをお招きし、三宅島の復興の現況等について討議しました。

(6)三宅島植林活動と現地交流会（12年6月、11月）
NPO法人 園芸アグリセンター主催の「三宅島植林ボランティア活動」に併せて、都内の園芸関係高校生らと植林活動に参加するとともに、商工会などとの交流活動を実施しました。

三宅島では、今でも毎日、雄山から火山ガスが噴出しており、緑豊かな牧場が灰の山になっていきます。緑の回復なくして、三宅島の復興はありません。引き続き、微力ですが、支援機構の皆さんとともに三宅島の復興支援に努めてまいります。

復興への取り組み様々に

「空き家バンク制度」や世代間交流



「空き家バンク制度」の流れ

住宅対策で定住増を

三宅村役場は、2月1日から「空き家バンク制度」の受け付けを行う。島内の空き家を貸したい（売りたい）と考えている家屋所有者の物件情報を三宅村ホームページで紹介し、島の定住希望者や住宅を必要として

いる島民の住宅確保を推進しながら、定住人口の増加を図ることを目的としている。村が受け付け、村が指定する島内不動産業者が仲介を行う。問い合わせは、三宅村企画財政課企画広報係。(04994(5)0984)

この制度は、在京者に

島では復興に向けた様々な努力が行われている。村は人口減対策として「空き家バンク制度」を制定。老人クラブが世代間交流のイベントも行われた。また、羽田、三宅の航空便も来年度の継続が決まり、このような取り組みが島民の元気に繋がることが期待される。

百人一首大会を開催

神着老人クラブは、世代間交流百人一首大会を1月20日、老人福祉館で開いた。神着地区近隣の小・中学校生と先生、応援の

も活用できる。高齢化と家屋の傷みも増すばかりで修繕も追いつかず諦めかけている人も多い。廃屋状態になって荒れた家屋も随所に見られるなか遅きにきした施策でもあるが、地域の安全と保安上からも安心して積極的に利用をお勧めする。村役場の担当者が高齢者と在京者に対してどれだけ親身に相談できるかが運用のカギとなる。詳しくは、三宅村ホームページでもみられる。



交流会に参加した小学生の優勝チーム

方々65人が参加。8チームが熱戦を繰り広げた。今回は小学生チームが優勝、老人クラブは準優勝と番狂わせがあるなど大熱戦となった。大会は、佐藤就之会長（ネット会長）と吉行一敏小学校長の挨拶ののち参加者の自己紹介、大正琴演奏。大会は老人クラブ3チーム、中学生2チーム、小学生3チームが3回戦勝ち抜き戦で小学生チームが優勝した。他に、低学年のカルタ、御はじき、坊主めくりなどで各所で歓声が上がった。また、昼食後には、中学校生徒による箏曲演

奏に聴きいった。校長先生は講評で、「生徒たちが負けまいと頑張ることで教育効果も高いので、今後も期待したい」と述べた。

全日空今年度も運行

三宅島・羽田間の全日空就航は、3月末で廃止の通告があつたが延期となった。13年度も今年度と同様に運航すると伝えられた。

この間、東京都と村は空路確保のために調布飛行場・三宅島間で新中央航空のドルニエ機による就航をめざして交渉を行ってきたが当面1年間の延期となり羽田乗り入れができる。

今後も空・海の三宅島運輸問題は、目が離せない。東海汽船も大型の新造船計画を進めており港湾の整備も急務だ。

観光事業の振興には、交通機関の快適な環境整備が最も重要である。帰島8年を迎えて、従来の旧設備に頼っていては、後で大きなつげが回ってくる。

お便り イベント

みんなで広げる交流の輪

前から交流がある
都立園芸高校など多くの
方からお便りや年賀状も届い
た。さらに、「防災フォーラム」
なども企画されており、交
流の輪が今後さらに広が
ることが期待され
る。

都立園芸高校より

タマネギ栽培 三宅のために

寒中お見舞い申し上げます



去年の7月(月)ありかとうじやいました。
 秋は三宅島に行くことになってしまいましたが
 夕禰栽培などの準備を怠せていたみたいです。
 先日(の)山火事などでは、これからもしかり活動を
 続けていかなければいけないと思っています。
 秋はもう頑張っています。

帰島前から支援と交流を続けている都立園芸高校三宅島緑化プロジェクトの東春樹さんなどから島民へ励ましのお便りが届いている。いまは三宅に送るタマネギ栽培などの準備中。「先日の山火事などで、これからもしっかり活動が続けていかなければいけないと思いました。これからも頑張っていきます」とありがたいお便りを頂戴した。

園芸高校校長先生、諸先生、多数参加してくれている生徒さんとボランティアの皆さん、今年もよろしくお願いします。感謝をこめて！

(佐藤)

ご参加お待ちしております

- ◎「新春の集い」主催ネット、3月9日午後6時半からビストロおきみくら（三宅島坪田在京者オーナー・京浜急行青物横丁駅すぐ・☎（5715）3688
今年三宅島からもフラダンス有志参加、踊り、演奏など楽しい集いです。飛び入り歓迎、ご参加ください。
- ◎「防災フォーラム～1.17神戸から3.11東日本そして未来へ～」(主催豊島区・教育委員会) 3月9日池袋西公園、東京芸術劇場地下2階で。ネットも午前11時から模擬店出店、あしたば、サツマもち、里芋販売、来てください。フォーラムは、午後14時～18時。向上高校も参加予定。問い合わせ・豊島区防災課☎（3981）2100
- ◎「三宅島復興に関する研修会」 三宅島復興小委員会(危機管理勉強会斎藤塾) 3月6日午後6時半 スタジオ鶴吉（東京メトロ新宿御苑前駅A1出口1分）講師・大森哲至先生（玉川大）、佐藤ネット会長。事前予約制

年賀状有難うございました

一部ですが添え書きなどをご紹介します。

- ・（私の大切な故郷 三宅島に行くこともでき、充実した一年でした。）いつもありがとうございます。息の長い活動に感謝です。永井タケ子様 高松眞知子様
- ・三宅島の緑年々回復している様子、島の復興に尽力されている方々に頭が下がります。松尾駿一先生（元三宅高校校長）
- ・皆様のご健勝をお祈りします。町村敬志先生（一ツ橋大学教授） 竹下克成先生（向上高校）
- ・ご無沙汰してすみません。三宅の皆さんにまたお会いしたいです。及川裕子先生 尾山とし子先生
- ・三宅の経験を東北にと思っています。室崎益輝先生（日本災害復興学会名誉会長）
- ・ご無沙汰して申し訳ございません。首都圏グループでリポーターやニュースを担当しています。金澤利夫様（NHKアナウンス） 中村雄一郎様（同記者）
- ・朝日新聞神田明美記者、毎日新聞大槻英二記者・木村健二記者、元読売新聞平しの記者などの皆様です。

編集後記

かねてより望まれていた人工透析の導入が、ついに実現することになりました。私たちDTPAも、紙面で取り上げ続けてきた問題です。

以前、奥様が人工透析がなかったために帰島できないという方の苦しい思いも取材もさせていたいただいたので、今回の決定は本当に嬉しいです。

(DTPA一同)